



平成18年10月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	36,943,042 万円	100.0%	102.6%(104.5%)	35,208,054 万円	99.9%(101.1%)
食 料 品	30,038,262 万円	81.3%(83.1%)	103.4%(105.1%)	28,613,976 万円	100.3%(101.5%)
農 産	4,449,173 万円	12.0%(12.5%)	106.6%(108.5%)	4,241,101 万円	103.5%(105.2%)
水 産	3,272,594 万円	8.9%(8.9%)	102.3%(104.2%)	3,117,594 万円	99.3%(100.8%)
畜 産	3,393,556 万円	9.2%(9.2%)	102.7%(105.2%)	3,222,697 万円	99.2%(101.3%)
惣 菜	2,984,620 万円	8.1%(8.0%)	104.9%(105.6%)	2,820,520 万円	100.9%(101.3%)
日配食品	7,018,969 万円	19.0%(19.8%)	102.8%(104.8%)	6,690,767 万円	99.9%(101.1%)
加工食品	8,919,350 万円	24.1%(24.7%)	102.5%(103.7%)	8,521,297 万円	99.7%(100.2%)
生活関連	2,969,597 万円	8.0%(7.5%)	99.8%(99.7%)	2,849,606 万円	97.7%(97.6%)
衣 料 品	1,878,797 万円	5.1%(4.2%)	96.0%(103.6%)	1,808,451 万円	95.1%(99.8%)
そ の 他	2,056,386 万円	5.6%(5.2%)	101.9%(103.6%)	1,936,021 万円	101.7%(102.2%)

数 値

全店総売上高	36,943,042 万円	店 舗 数	3,524 店舗
総売場面積	6,072,460.6 m ²	総従業員数	174,787 人

店舗平均月商	10,483.3 万円	平均客単価	1,833.6 円
月間m ² 売上(前月)	6.1 万円(6.2 万円)	平均店舗面積	1,723.2 m ²
月間坪売上(前月)	20.1 万円(20.5 万円)	パート比率(前月)	75.4%(75.1%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

全体概況

- ・ 10月度は気温が平年よりも高めであったことから、冬物商材が全般的に不振となった。また、1点単価は回復傾向にあるも、買い上げ点数の減少傾向は依然として続いている
- ・ これまで相場高が続いた野菜は、中旬以降価格が急激に落ち込んだ。また、水産のマグロについては、品不足および価格高騰が続いている

商品動向

農産

- ・ 相場高が続いていた野菜も、中旬以降、大根、白菜、キャベツ、ほうれん草などの価格が暴落し、売上が落ち込み始めた
- ・ 気温の影響により、鍋商材が不振となる。特にきのこ類は不振であった
- ・ 果物については、テレビ放映の影響もあり早生みかん、りんごが好調に推移した

水産

- ・ 相場高の傾向は続いており、特にマグロについては、品薄状態が目立ち始めた
- ・ 旬商品の秋鮭については好調に推移した。また、ブリについては、養殖物が相場高で苦戦するも、天然物については入荷が順調であったことから好調に推移した

畜産

- ・ 気温が高めであったことから、鍋商材は苦戦するも、焼肉商材は好調に推移した
- ・ 牛肉については、国産物は好調に推移するも、輸入物は不振となる。また、豚肉については、全般的に好調に推移した

惣菜

- ・ 旬のカキやさんま、いわしを使用したフライ物が好調であった
- ・ 新米をアピールした米飯が好調に推移した。また、健康志向の五穀米や玄米を使用した米飯も順調に売上を伸ばしている
- ・ 平年より雨が少なかったことから、行楽商品の需要が高まり、寿司やおにぎり、揚げ物などが好調に推移した

日配・加工食品

- ・ 日配食品では、気温が高めに推移したことから、おでんやうどんなどのホットメニューが不振となった。逆に、飲料やデザートなどが好調に推移した
- ・ また、これまで低迷していた牛乳は、価格低下も一段落し、気温が高めに推移したことから、回復の兆しが見え始めた
- ・ 加工食品においても、気温の影響により鍋物関連商品などのホットメニューが不振となった
- ・ 飲料や酒類についても日配食品同様に気温の影響により好調に推移した
- ・ また、新米についても好調に推移している

その他

～行楽マーケットの動向について～

- ・ お弁当商材として、ふりかけや鮭フレーク、ウインナー、から揚げなどが好調。また、飲料やビール、発泡酒、焼酎などについても好調に推移した。しかしながら、魚卵については不振となった
- ・ 冷凍食品の弁当商材については、惣菜の揚げ物などにシフトしたため、不振との報告もある
- ・ 惣菜部門では、おにぎりやお弁当の予約注文が週末を中心に多くあった。特にお弁当については、予約数が昨年を上回る状況との声が多かった

～ハロウィンマーケットの動向について～

- ・ GMSとは違い、大々的にハロウィンを展開している企業は少ない。また、全店展開ではなく、希望する店舗のみ展開するという企業もある
- ・ 商品的には、かぼちゃのチョコやデザート、パンなどを展開したところが多い。しかし、売上としては昨年と同様であり、全体の売上に影響をおよぼすものではない
- ・ イベントとして、かぼちゃの重量当てクイズなどを実施したところでは、応募自体は多く好評であったが、販売には結びつかなかったとの報告もある

～ボジョレー・ヌーヴォーの予約状況について～

- ・ 予約状況としては、昨比70%台～130%台と企業により分かれる。また、解禁日より店頭で販売はするが、予約を実施していないという企業も多い
- ・ 価格帯は1,180円～3,480円で中心価格帯は2,000円前後。取り扱いアイテム数としては、4～7アイテム。予約特典としては、ワイングラスのプレゼントが最も多い
- ・ ヴィラージュ・ヌーヴォーなどの高グレード商品やオーガニックワインなどのこだわり商品、ミニサイズの飲み比べセットなどの動きが好調との報告もある

以上